

県土マネジメントを推進し、住みよいまちづくりをします。

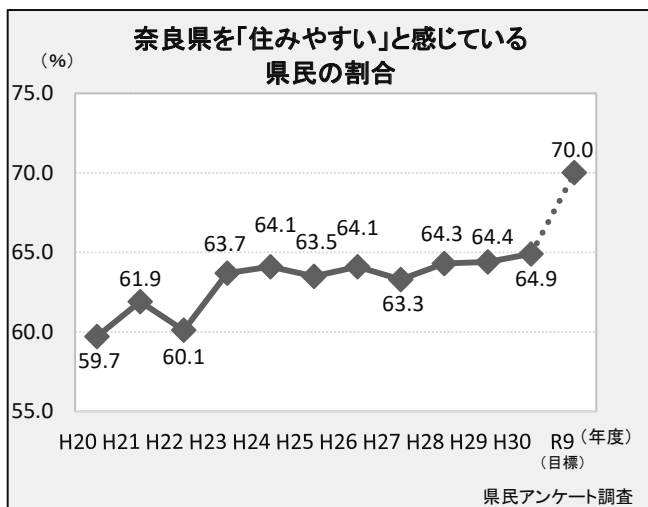
地域性を活かした、にぎわいのある、くらしやすいまちづくり

目指す姿

令和9(2027)年度までに、県民アンケートにおいて、奈良県を「住みやすい」と感じている県民の割合を70%にします。

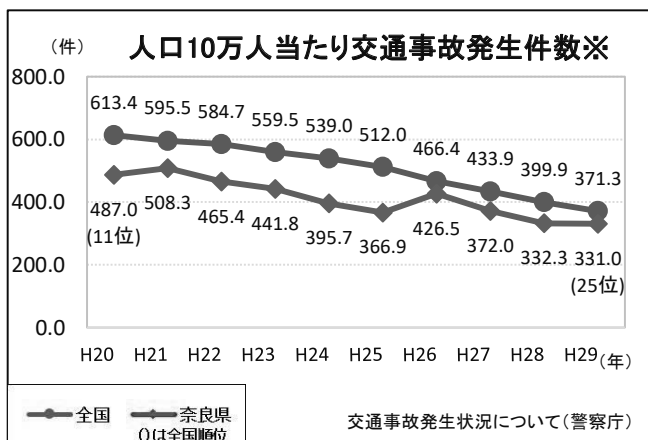
主担当部局(長)名
まちづくり推進局長 増田 哲司

1. 政策目標(目指す姿)達成に向けた進捗状況



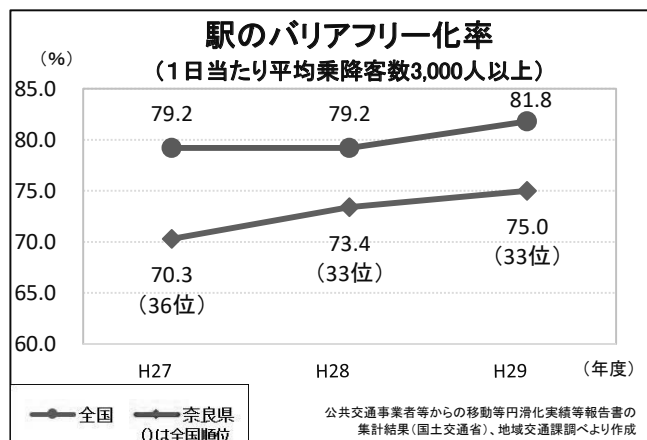
指標	奈良県を「住みやすい」と感じている県民の割合 (%)				
	基準値		実績値	進捗率 (傾向)	目標値
	59.7	↑	64.9	50.5%	70
進捗状況	H20 (2008)	5.2 ポイント	H30 (2018)	10/19 年目	R9 (2027)
	平成30年度の奈良県を「住みやすい」と感じている県民の割合は64.9%で、基準値である平成20年度と比べて5.2ポイント増加しました。				

2. 現状分析

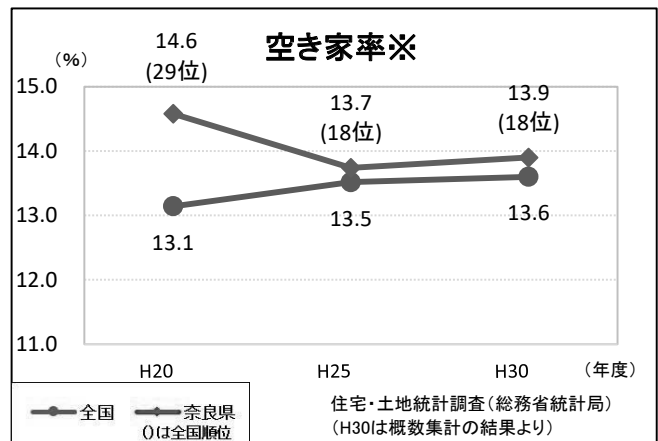
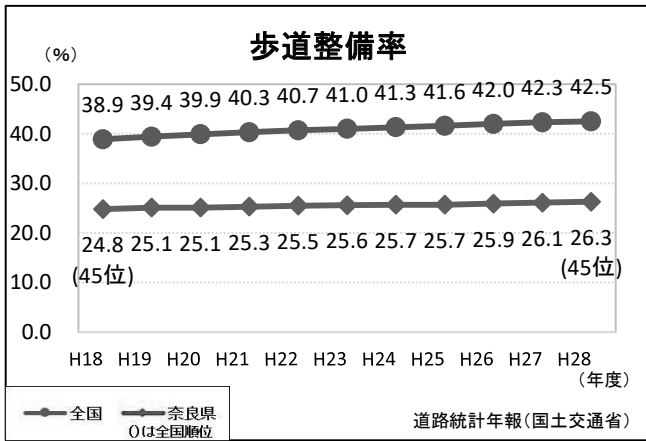


※は数値が低い方が良くなる指標です。

人口10万人当たり交通事故発生件数は概ね減少傾向にあり、全国と比べても少なくなっています。(→戦略3)



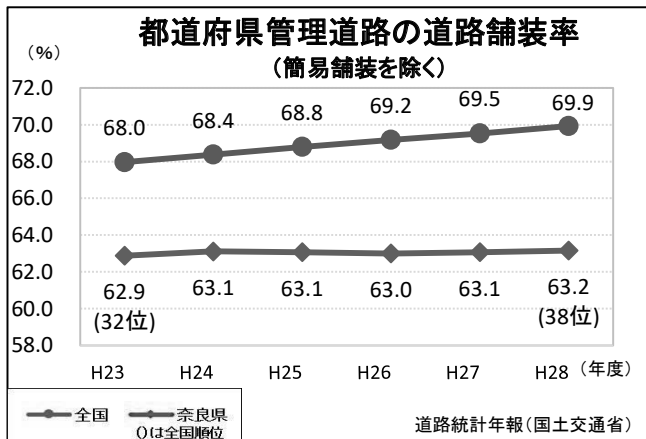
平成29年度の駅のバリアフリー化率(1日当たり平均乗降客数3,000人以上)は、平成27年度と比較して4.7ポイント増加しましたが、全国平均と比べて依然として低い状況となっています。(→戦略3)



※は数値が低い方が良くなる指標です。

歩道整備を推進したことにより、歩道整備率は増加していますが、全国と比べると依然として低い水準となっています。(→戦略2)

平成30年度の空き家率は、平成20年度と比べて0.7ポイント減少しており、全国平均と同程度となっています。(→戦略1)



平成28年度の県管理道路の道路舗装率は平成23年度から0.3ポイント増加していますが、全国と比べると低い状態が続いています。(→戦略3)

3. 平成29年度の評価及び平成30年度の取組等を踏まえ、令和元年度に向けて見直した内容

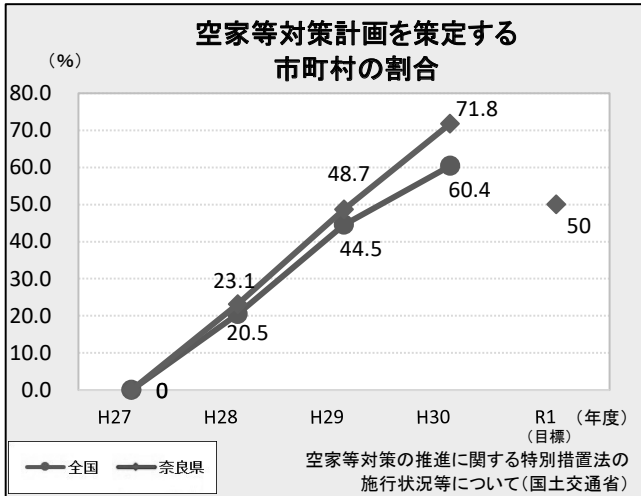
平成28年12月に成立・施行された「無電柱化の推進に関する法律」において、国の策定する「無電柱化推進計画」を基本とし、都道府県の区域における「無電柱化の推進に関する施策について定める計画」の策定が、都道府県の努力義務として規定されたため、奈良県においても、今後の無電柱化の基本的な方針、目標、施策等を定めた「(仮称)奈良県無電柱化推進計画」の策定に向けて、取り組んでいます。

4. 戦略目標達成に向けた進捗状況

戦略1 地域資源を活かし、住みよく、住み続けることができるまちづくりを推進します。

主担当課(長)名
地域デザイン推進課長 加納 陽之助

戦略目標



空家等対策計画を策定する市町村の割合 (%)					
指標	基準値		実績値	進捗率 (傾向)	目標値
①	0	↑	71.8	143.6%	50
	H27 (2015)	71.8 ポイント	H30 (2018)	3年 4目	R1 (2019)
進捗状況	奈良県空家対策連絡会議における市町村への声かけ等により、平成30年度末の空家等対策計画を策定する市町村数は28市町村となり、実績値は71.8%で、目標を1年早く達成しました。				

指標	進捗状況	基準値		実績値	進捗率 (傾向)	目標値
② まちづくりのための活動行動者率 (%)	まちづくりのための活動行動者率は、平成18年度と比較して0.9ポイント低下していますが、各種ボランティアサポート事業の積極的な情報発信により、活動行動者率の回復に努めています。	13.7	↓	12.8	基準値を下回っています	増加
		H18 (2006)	0.9 ポイント	H28 (2016)		

主な取組指標等

地域資源を活用したまちづくりの推進(②)		
「奈良・町家の芸術祭 はならあと」開催会場となった空き町家の利活用件数[累計](件)		
27	↑	38
H26 (2014)	11 件	H30 (2018)

地域資源を活用したまちづくりの推進(②)		
駅前広場等でのマルシェ開催市町村数[累計](市町村)		
1	↑	3
H27 (2015)	2 市町村	H30 (2018)

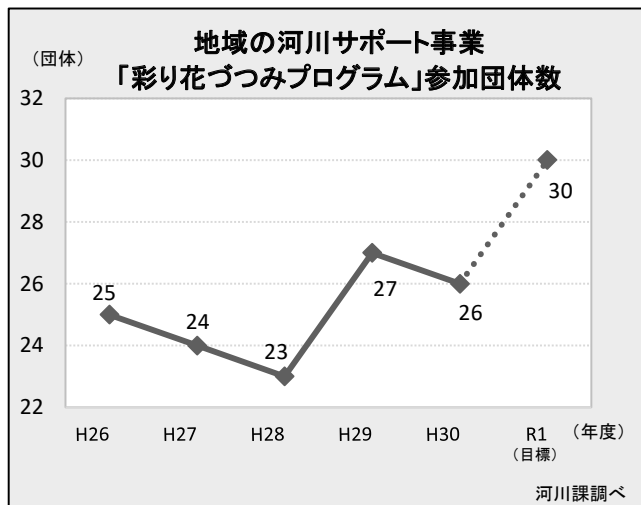
目標達成に向けた成果

奈良県総合医療センター跡地を活用したまちづくりについて、「まちづくり協議会」を開催し(2回)、地元と意見交換を行いながら奈良市によるまちづくり基本構想の検討を推進しました。また、奈良県総合医療センター跡地整備に向けた土壌汚染調査(表層調査)を実施しました。(②)

戦略2	やすらぎ・憩い・にぎわい・利便性を提供する空間の創出を推進します。
-----	-----------------------------------

主担当課(長)名 県土マネジメント部 企画管理室長 筒井 昭彦

戦略目標



指標①	地域の河川サポート事業「彩り花つつみプログラム」参加団体数(団体)				
	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
	25	↑	26	20.0%	30
	H26 (2014)	1 団体	H30 (2018)	$\frac{4}{5}$ 年目	R1 (2019)
進捗状況	参加団体の増加を図るため、参加者団体募集チラシを市町村・商工会議所を通じて配布しましたが、平成30年度の参加団体数は26団体となり、進捗率は伸び悩んでいます。				

指標	進捗状況	基準値		実績値	進捗率(傾向)	目標値
② 馬見丘陵公園花サポーター(花緑ボランティア)登録者数(人/年)	新規登録者が伸び悩んでいることにより登録者が減っていますが、広陵町・河合町など地域への積極的な情報発信により、登録者数の回復に努めていきます。	48	↓	43	▲9.6%	100
		H28 (2016)	5 人/年	H29 (2017)	$\frac{1}{4}$ 年目	R2 (2020)
③ 京奈和自転車道の整備延長(km)	京奈和自転車道の延長約75kmのうち、平成30年度までに案内誘導及び注意喚起サイン等の整備が約19km完了しました。	0	↑	19	25.3%	75
		H27 (2015)	19 km	H30 (2018)	$\frac{3}{5}$ 年目	R2 (2020)

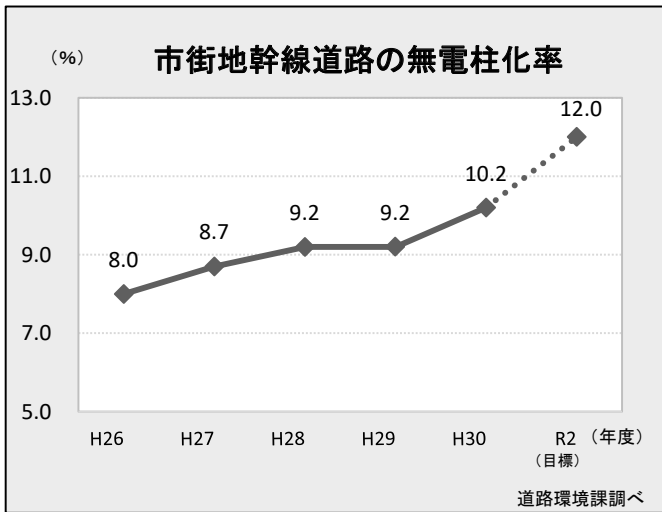
主な取組指標等

馬見丘陵公園のにぎわいづくり(②)		
馬見丘陵公園の来場者数(万人)		
67.1	↑	97.5
H24 (2012)	45.3 %	H30 (2018)

戦略3 バリアフリー・ユニバーサルデザインや景観に配慮した空間の創出を推進します。

主担当課(長)名
県土マネジメント部 企画管理室長
筒井 昭彦

戦略目標



市街地幹線道路の無電柱化率 (%)					
指標	基準値		実績値	進捗率 (傾向)	目標値
①	8.0	↑	10.2	55.0%	12.0
	H26 (2014)	2.2 ポイント	H30 (2018)	$\frac{4}{5}$ 年目	R1 (2019)
進捗状況	平成30年度は、国道168号等で無電柱化の整備を推進したため、市街地幹線道路の無電柱化率は10.2%となり、平成26年度から2.2ポイント増加して、目標に向かって進捗しています。				

指標	進捗状況	基準値		実績値	進捗率 (傾向)	目標値
② 駅のバリアフリー化率(1日当たり平均乗降客数3,000人以上) (%)	駅のバリアフリー化率は、平成27年度と比較して4.7ポイント増加しました。	70.3	↑	75.0	15.8%	100
		H27 (2015)	4.7 ポイント	H29 (2017)	$\frac{2}{5}$ 年目	R2 (2020)
③ ノンステップバスの導入率 (%)	ノンステップバスの導入率は、平成27年度と比較して12.0ポイント増加しました。	39.1	↑	51.1	38.8%	70
		H27 (2015)	12.0 ポイント	H30 (2018)	$\frac{3}{5}$ 年目	R2 (2020)
④ 地域のサポート事業「ボランティア支援プログラム」参加団体数(団体)	参加団体募集チラシを配布し、参加団体増加を図るも減少しました。引き続き、参加団体の増加に努めていきます。	101	↓	97	▲50.0%	109
		H26 (2014)	4 団体	H30 (2018)	$\frac{4}{5}$ 年目	R1 (2019)

主な取組指標等

河川美化活動の推進(④)		
地域の河川サポート事業「憩いの川づくりプログラム」の参加団体数		
50	↑	55
H24 (2012)	5 団体	H30 (2018)

5. 令和2年度に向けた課題の明確化

目指す姿(再掲)

令和9(2027)年度までに、県民アンケートにおいて、奈良県を「住みやすい」と感じている県民の割合を70%にします。

<奈良県の持っている強み>

- 1 自転車が観光の移動手段として有効
- 2 県内に歴史的まちなみや美しい景観が多数保全されている
- 3 県民の住みやすさの評価では約60%が「住みやすい」と評価
- 4 リニア中央新幹線について、平成23年5月に全国新幹線鉄道整備法に基づき決定された整備計画において、主要な経過地として「奈良市附近」と定められている

<奈良県の抱えている弱み>

- 5 「親しみやすい水辺がある」「高齢者等が安心して出掛けられる」が低評価
- 6 通勤時における自家用車利用率は、約43%と高い
- 7 県管理道路の歩道整備率は約26%で、全国平均約42%と比べ大幅な遅れ
- 8 最寄りの駅や近隣のデイサービスセンターへの距離が遠い
- 9 郊外に大型ショッピングセンター等が数多く出店
- 10 人口が平成12年をピークに減少傾向
- 11 国・県・市町村それぞれが、別々の目的で施設を保有し、老朽化が進行

<奈良県への追い風>

- a PFI等による民間(事業者)の公共事業への参入
- b 国民の環境への意識の高まり
- c 国において、リニア中央新幹線のターミナル駅となる新大阪駅の機能強化に関する検討を実施
- d 全国的な通学路等の安全対策実施の動き
- e 健康に対する意識の高まり
- f 公共施設にファシリティマネジメントの考え方を導入する自治体が増加
- g 国・公有財産における国と地方自治体の連携

<奈良県への向かい風>

- h 高度経済成長期等に建てた住宅の老朽化
- i 少子高齢化
- j 中心市街地の空洞化

《強みで追い風を活かす課題》

- ・美しく効率的に管理するための除草や花の植栽の「選択と集中」(2,b)
- ・奈良県自転車利用促進計画に基づく取組の推進(1,e)
- ・都市公園等のマネジメントの推進(2,a,b,e)
- 【重要課題】リニア中央新幹線の建設促進(4,c)

《弱みを踏まえ追い風を活かす課題》

- ・通学路等の歩行空間の整備(6,7,d)
- ・高齢者が安心して移動できる歩行空間の整備(5,7,8,d,e)
- ・住民と協働した河川環境整備(5,b)
- 【重要課題】まちづくりの拠点となる公共施設等の利活用を国、県、市町村が連携して推進(11,f,g)

《強みで向かい風を克服する課題》

- ・良好な住環境の形成(3,i)

《弱みを踏まえ向かい風に備える課題》

- ・空き家対策の推進(10,h,j)
- ・「まちなか」と「郊外」の住み替え円滑化の推進(10,h,j)
- 【重要課題】医療を中心としたまちづくり(8,i)
- ・高齢者等が住みよいまちづくり(8,9,i)

6. 平成30年度の評価及び令和元年度を取組等を踏まえた、令和2年度以降の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
リニア中央新幹線の建設促進(戦略2)	「奈良市附近」駅の位置及び三重・奈良・大阪ルートの早期確定を、引き続き国等に対し強く要望します。また、建設促進を図るため、地元自治体に協力を求められる事項やその受入体制等について検討します。
弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
まちづくりの拠点となる公共施設等の利活用を国、県、市町村が連携して推進(戦略1)	国・公有財産のデータを一元化し、共有化を進めて、国、県、市町村が財産の最適利用を図る際、連携してまちづくりの拠点として必要な機能を見定め、公共施設等の利活用を推進します。

7. 平成30年度の評価及び令和元年度を取組等を踏まえ、令和2年度以降に見直す内容

弱みを踏まえ向かい風に備える課題	今後の取組方針
医療を中心としたまちづくり(戦略1)	<p>【県立医科大学附属病院周辺】 県立医科大学の教育・研究部門の移転を契機として、橿原市とともに医大隣接の利点を活かしたまちづくりを進めます。</p> <p>【県総合医療センター周辺地域】 基本構想策定に向け、引き続き地元との意見交換を重ねながら地域包括ケアの行き届いたまちづくりができるよう奈良市と一層連携を深め推進していきます。</p>

